

内子座



藝於遊



屋根の様子

令和7年11月14日、久しぶりに屋根の様子を見せていただきました。屋根の葺き土もきれいに取り除かれ、ルーフィングという屋根材の下に敷く下葺き材で、主に防水の役目をもつ材も取り除かれ、野地板がきれいに見える状況となっています。

右の写真は、大屋根西側の様子です。この写真からわかるように、屋根の化粧裏板が見える部分は古い材（大正時代のオリジナルの材と思われる）が使われ、それ以外の部分は新しい材（昭和の復原工事で新しく取り替えられた材）が使われています。これらは、太鼓櫓、越屋根、東西の櫓でも同様です。

►右の写真：大正時代の材と思われる野地板からは、墨文字を見つけることができました。写真は大屋根の東側のものです。このほか北面・西面でも見つけられました。こうした発見も保存修理工事の醍醐味ですね。



妻壁レリーフの解体に向けて

妻壁の水切り部分のレリーフは、今回の工事において、解体し、復旧することを予定しています。復旧するときに元の



形に復旧できるよう、図柄の写し取り作業が行われました。赤色の鉛筆で優しく抑えながら浮き出ている部分を塗っていく作業です。時にはレリーフの形を確認しながら写し取り作業が進められました。